



ダムの役割を体験！

～中学生が一日事務所長になります～

もりおか ちゅうおう こうとう がっこう ふぞく ちゅうがっこう さわい かれん
盛岡中央高等学校附属中学校3年生の澤井佳恋さんが、北上川ダム統合管理事務所の「一日事務所長」を体験します。

澤井佳恋さんが「水の日」及び「水の週間」の行事の一環として、次世代を担う中学生を対象とした「第44回 全日本中学生水の作文コンクール」において、全日本中学校長会会長賞を受賞されたことを受け、今回、当事務所の業務を体験して頂くことを通じ、ダムの治水や利水に果たす役割や水の大切さに対する理解を深めて頂く機会として企画したものです。

【日時】

令和4年7月29日(金) 13:30～

※出水対応等により中止になる場合があります。

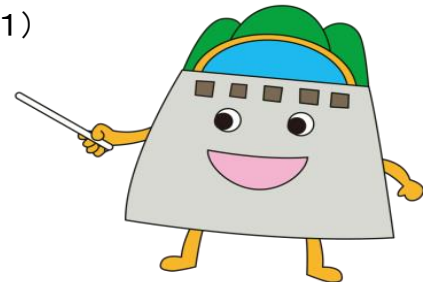
【場所】

北上川ダム統合管理事務所(盛岡市下厨川字四十四田1)

【体験内容】

- 委嘱状交付
- 業務ミーティング
- TV会議・庁内放送体験
- ダム操作室機器の点検・操作
- ものしり館展示視察
- 巡視艇による湖面巡視(簡易水質調査)
- ダム施設点検・巡視(ダム天端～監査廊) など

※天候により体験内容は一部変更になる場合があります。



北上川ダム統合管理事務所
キャラクター「ダムくん」

【報道関係者の方へ】

「巡視艇による湖面巡視」については、人数の関係上、報道関係者の方は乗船できませんので、ご了承ください。

※全日本中学生水の作文コンクールについて

主催：内閣官房水循環政策本部、国土交通省、都道府県

後援：文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、環境省、水の週間実行委員会、独立行政法人水資源機構、全日本中学校長会

詳細は「水の日」「水の週間」についての国土交通省ホームページをご覧ください。

https://www.mlit.go.jp/mizukokudo/mizsei/tochimizushigen_mizsei_tkl_000010.html

《発表記者会：岩手県政記者クラブ》

＜問い合わせ先＞

国土交通省 東北地方整備局 北上川ダム統合管理事務所
〒020-0123 盛岡市下厨川字四十四田1番地

副所長 みかみ ひろし 三上 博司 電話019-643-7831(内線 205)

管理第一課長 かまたい たけし 釜台 健 電話019-643-7971(内線 331)

全日本中学校長会会長賞（優秀賞）

命ある水

岩手県 盛岡中央高等学校附属中学校 三年 澤井 佳恋

岩手県には、水の名所が多くある。龍泉洞のような観光スポットだけでなく、大慈清水、青龍水といった江戸時代から守り続けられている歴史ある場所、さらには中津川のように私自身の生活にも大きく関わっている場所まで、県内をみれば数えきれないほどだ。それと同じくらい、岩手県には全国的にも名の知れた文学者が多くいる。その中の一人として有名なのは宮沢賢治だろう。絵本や国語の教科書などで彼に出会った方も多いのではないだろうか。私自身も幼い頃から彼の童話や詩と親しみ、昨年は学校で宮沢賢治学習をしたことで、より彼の生涯や作品について深い知識を得ることができた。そんな岩手県で暮らしていると、ふと「あの先人もこの景色をみていたのだろうか」と考えることがある。例えば、滝沢市の柳沢湧口は宮沢賢治の詩集「春と修羅」の中で「あの柳沢の湧水」と詠われていることから、時代は違えど私たちのよく知る先人と同じ景色を見ている可能性も当然有り得るのだ。宮沢賢治は「銀河鉄道の夜」や「雨ニモマケズ」など沢山の名作を残しているが、「やまなし」をはじめ、水に関わる作品も数多くある。今回私が「水」というテーマと深く向き合うために参考にした作品は「青森挽歌」という詩だ。この詩は賢治の妹であるトシの死を詠ったものだが、この詩から「水」について考えたことがある。

それは「水」は私たち人間の生き方と、とても似ているということだ。詩の中で彼は、碧い寂かな湖水の面を見て「天のる璃の地面と知つて／こころわななき紐になつてながれる空の楽音」と表現している。ここには水の神秘的な様子がすべて表れているように感じた。水は山から川、海へ流れ、気体となって天に昇り、やがてまた雨として大地に降り注ぐ壮大な循環の中にある。その水たちの宿命は輪廻転生のようであり、私たちが持つ仏教的思想がそのまま形となって表れているように思える。しかし、私たちが本当に考えなければいけないのはこ

こからだと感じた。水は循環する。水は一度目に見えない状態になつても、必ず元に戻ることができる、本当にそうだろうか。確かに、自然な流れでいけばその法則が正しいものであることは間違いないだろう。だが、例外として当てはまるのは人間がその流れを壊してしまつた場合だ。例えば東北最大の河川、北上川。北上川は現在、水の汚れの程度を示す水質階級はⅠと最もきれいな階級に分類され、非常に多くの生物が生息している。一方で、つい四十年前の北上川の姿は今とは全く別の川にも思えるほど悲惨な光景であつた。その原因は松尾鉱山から流れた坑産水。当時の人々は生活にかかせない貴重な水資源を自らの手で破壊してしまつたのだ。もちろん意図してその結果になつたのではない。しかし、ここでもう一度思い出してほしいことがある。それは、宮沢賢治の作品から感じた「水も私たちも似たような運命をたどっている」ということ。それはつまり、水と人間の命の価値は対等ということであると考へた。水の運命を変えてしまうということは水の人生そのものを狂わせてしまつていくことと同義ではないだろうか。しかも、その結果はやがて私たちに返ってくる。これらのことを踏まえると、「水」という存在がどれだけ貴重であるかがよく分かるだろう。

水の無い生活を一度でも想像したことはあるだろうか。私には到底考えられない。川も湖も海も無い地球。それは果たして地球なのだろうか。雨が降らないということは虹を見ることもない。そんな人生は楽しいのだろうか。水が生きているから私たちも生きている。水は私たちの生きがいをつくっている。かつて先人たちが見た岩手の景色を守るため、水への感謝を忘れずに生活していきたい。